

警察庁によると、睡眠薬を悪用した性犯罪の摘発は2022年、全国で60件に上り、10年前の17件から約3倍に増えました。飲み物に薬を混ぜて乱暴するなどの手口で、

SNSやマッチングアプリの普及などで

見知らぬ男女が飲食をともにする機会が増えたことが一因とみられ、後を絶ちません。被害者は酒に酔っただけだと思ひ込むなど、薬の影響で被害に気づかなかつたり、記憶

睡眠薬による性被害に気をつけよう

が曖昧あいまいになったりするケースが多くあります。現在は、毛髪などの鑑定で薬物の検出が可能となっているので、警察は「おかしいと思ったら相談してほしい」と呼びかけています。

被害に遭わないためには、ふたの空いていない飲料を飲む、飲み物を置いて席から離れて戻って来た際は、新しい飲料を注文することなどで対処できます。

防犯一口メモ